

米田柔整専門学校

学校関係者評価報告書

(平成30年度)

評価項目一覧

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

平成30年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人米田学園米田柔整専門学校学校関係者評価委員会は「平成30年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

業界関係：森川伸治

卒業生：杉浦光幸

加納功詞

有識者：森 虹輝

2. 平成28年度 自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評 価	評価に対する今後の学校の取組
教育理念・目的	本校の伝統である外傷をみる能力を養うとともに、医接連携をより力強く推進していただきたい。その為には今以上に療養費を扱う社会的責務を認識させ、柔道整復師という職業に誇りを持ち、医療人としての責任を理解した意識の高い人材育成を期待する。	第三者評価を受けて、各規定の整備がの必要性を説かれ、早急に整備した。養成施設内での教育を再評価していき、PDCA が効果的に廻り続ける環境が必須となる。
学校運営	組織運営については、医療関係者以外の学識経験者を含め多角的な視野で構成され、意見集約していることが理解できた。 学校関係者評価委員会を組織し、自己点検・自己評価内容を開示している。 人事、給与、就業規則等、適切な守秘義務と透明化の継続が重要である 平成 30 年度からのカリキュラム変更にも適切に対応できている。臨床実習を自前で行わずに多岐にわたる施設と連携しているところは評価に値する。	今後も学校関係者評価等を継続し、忌憚のない意見集約を行い、当該意見の検証、積極的な対策を講じていく。 臨床実習の充実を最大のテーマに掲げ、その為に必要な人材育成、システム構築を進めていく。 実習施設として、介護、スポーツ等も重要なキーワードとして、その現場も開拓していく。卒業生との連携をより一層密にしていく必要性を痛感している。
教育活動	他養成施設に比べ充実した「評価」の教育が実践されている。今後も継続するとともに、その「評価」が実際の臨床現場でアドバンテージとなっている現実を理解させる教育手法の向上を期待する。 接遇面を中心とした社会的マナーの充実が評価するが、療養費を扱う医療人としてのコンプライアンス教育は更なる充実が望まれる。 平成 30 年度の臨床実習増加に伴い、校外実習における内容の構築とその評価について時間をかけた議論の結果、適切な臨床実習への準備が行われている模様。	卒業生に医接連携の事例報告をお願いし、基本的診察とその評価の重要性を再認識させる場を設ける。また、病院・クリニックと連携してその情報収集に努める。 診療録記載を徹底させる教育手法を考案し擦り込んでいく。 臨床実習について多くの卒業生と連携をはかり学生にとって意味のある実習を展開できるよう進めていく。
学習効果	貴学の病院・医院等医療機関への就職率の高さは特記すべき事項である。 国家試験合格率は高い実績を継続されている。 1 年次の退学率は大幅に減少しており、その取組みの成果であると評価する。2・3 年次の退学者ゼロを	1 年次の退学率減少を継続しつつ、2・3 年次の退学について対応策を構築する。経済的理由への対策として休学制度の活用等、配慮が必要になる。 卒業後の動向は臨床実習施設との連

	<p>目標に掲げ更なる取組みを期待する。 卒業後の動向調査は、現状を適切と評価するが、守秘義務を遵守する中、適切にかつ積極的に進めていただきたい。</p>	<p>携を含め細やかな情報収集に努めたい。また保護者との連携も密に図っていく。</p>
学習支援	<p>補充講義の積極的な取組みは評価に値するが、消極的な学生の意識改革を促す仕組みには、さらなるアプローチを期待する。 柔道を通じた教育に力を入れ、平素から重症度の高い頭部外傷等への啓蒙活動が充実していることが理解できた。 5000人を超える卒業生ならびに東海4県柔道整復師会の有効活用についても、新たなアプローチをお願いする。</p>	<p>消極的学生の動機付けについては、医療・介護・スポーツの現場を体験させることでその一助としたい。 この際、卒業生をお願いすることで校内の教育では得られない劇的な成功例を重ねたい。現在は実習がその役割を担っていることを期待している。</p>
教育環境	<p>校舎の増築、現校舎ならびに道場の改修工事を終え、教育環境は充実していると評価できる。 業界との連携強化は従来からの卒後臨床研修講師の担当、業界学会の学生発表の継続等、高く評価している。臨床実習にあたり、適切な接骨院の臨床現場を慎重に選択していただきたい。</p>	<p>お願いする臨床実習施設については慎重に検討をすすめていく。特に接骨院については良質な医接連携を実践している施設にご尽力をいただけるよう努力していく。現在進行中であり、多くの接骨院および医療施設と連携を図っていく。</p>
学生の受入れ募集	<p>業界との多角的な取組みにより、柔道整復師の認識を高める方策を講じていただきたい。 高等学校へのアプローチは継続しつつ、学習支援でも述べた5000人を超える卒業生ならびに東海4県柔道整復師会の有効活用についても、積極的に実践されることを望む。 現状は入学募集で非常に厳しい状況であることは理解できた。しかし、本物の柔道整復師を育成する学校として存続に向けて邁進されることを期待する。</p>	<p>意識の高い受験生ならびにその動機付けを目標にAO入試を行っていく。 柔道経験者に対する支援制度を設け将来の指導者として育成する。昨年より実施している卒業生によるセミナーを継続していく。 トレーナーAO入試をはじめ、より多くのターゲットから入学生を招き入れる方策を行っていく。</p>
財務	<p>受験者数の確保が最優先される。柔道整復師業務の社会性と責任、そしてその可能性とやりがいを伝えていただき、覚悟を持って入学する優秀な人材確保に努めていただきたい。</p>	<p>柔道整復師の魅力を発信し続けることが重要と考える。入り口としてスポーツトレーナーというキーワードを掲げ新たな展開も試みる。</p>
法令などの遵守	<p>学校運営に対しては特記する事項はない。 学生教育の側面として、療養費を扱う責任については今以上の取組みをお願いする。超音波観察装置の取り扱いについては診断のもととならないように厳重に取り扱いには注意してもらいたい。</p>	<p>社会保障制度や倫理についてその教育内容を再評価し、有効かつ効率的な方法を構築する。超音波観察装置の扱いについては慎重に取り扱う。</p>
社会貢献	<p>開校以来、柔道整復師業界への貢献度は高く、今後も継続した活動を期待する。 業界との連携の中で、業界団体が実施している救護・ボランティア活動への助手等、学生の積極的な参加を期待する。</p>	<p>業界団体の事業に参加させていただき、学ぶ姿勢を示していく。 柔道教室におけるこどもに対する柔道指導を継続していく。</p>

【総評】

米田柔整専門学校が、東海地域はもとより全国的にも柔道整復師養成施設のリーダー的存在であることは周知の通りである。開校以来、医接連携の重要性を説き、地域におけるチーム医療が実践できる柔道整復師を輩出してきた。佛手仏心の精神は、患者ファーストを意味するものであり、在學生はもとより卒業生の意識が「患者中心の柔道整復術」であり続けることが要求されている。現状の成功体験に満足することなく、業界団体はもとより他医療関係職種の学校ならびに養成施設とも連携を図りながら、療養費を扱う責任と誇りを備えた医療人育成に全力を尽くしていただきたい。

平成 30 年度からの新たなカリキュラムに対応にあたり、その立場を十分理解した模範的かつ時代の先を進む教育内容の実践が期待される。入学募集が非常に厳しい中でも、米田柔整専門学校の本質は見失うことなく、かつ時代に合わせて柔軟に学生募集を展開されることを期待する。今後も柔道整復の魅力を伝え続ける施設であってほしい。